

混迷する大学入試改革を乗り越えて ～横浜市立大学での取り組みから～

- I. 世界比較の視点で高大接続改革を考える
- II. 横浜市立大学での取り組みから

出光 直樹

横浜市立大学 アドミッション課
専門職・学務准教授

045-787-2055

idemitsu@yokohama-cu.ac.jp

1/9(土) 9:30～11:30 私のオンライン・サロン「出光ゼミ」を
Zoom 開催します。詳細は <http://www.idemitsu.info/>

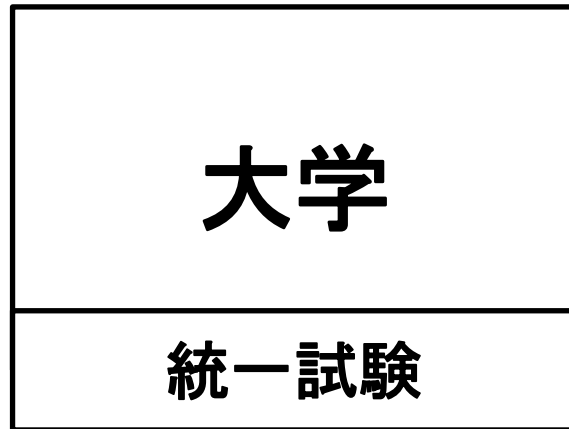
プロフィール

- 1990年札幌学院大学人文学部卒業。
- 桜美林大学大学院で高等教育論を専攻し1997年修士課程修了。
- 1999年に博士後期課程を中退し同大学の職員に。大学院在学中は研究員としてFD/SDやIRのサポート、大学院中退後は職員として入試広報等の業務に従事。
- 2005年から横浜市立大学に移り現職。事務局組織における専門職として、電話対応や願書処理等の実務とともに、データ分析や新しい入試方法のデザインを担う。
- 2014年～2018年にかけて桜美林大学大学院にて授業科目『大学アドミッション』を担当。
- 主な学会・研究会活動： 大学教育学会(理事)、関東地区大学教育研究会(幹事)、オセアニア教育学会(理事)、FMICS高等教育問題研究会(幹事)

I . 世界比較の視点で高大接続改革を考える

1. 世界的に特殊な日本の高大接続
2. 結局中途半端な日本の高大接続改革
3. 高校生を“その気”にさせる大学への道筋を、
いかに“デザイン”するか

統一入試型



- 国家レベルの統一試験が実施されるタイプ。
 - 中国： 高考
(全国普通高等学校招生入学考試)
 - 韓国： 修能 (大学修学能力試験)
 - 台湾： 学測 (大学学科能力測驗)
- ただしこれらの国においても、統一試験に拠らない選抜方式が導入されている。
 - 韓国の入学査定官制度 (AO入試)

中等教育修了資格試験型

大学

- 中等教育(高校)の修了資格試験が国家(州)レベルで制度化され、それが大学入試の機能も兼ねている国や地域。ヨーロッパ諸国やその影響を受けている旧植民地諸国などに多くみられる。
- 中等教育修了の水準が比較的高めで、日本の高校卒業生が大学入学を希望する場合に、1年間の進学予備課程(Foundation Course)の修学を求められる国も多い。

予備課程

英: Aレベル、仏: バカロレア、独: アビトゥア、
NZ: NCEA、香港: HKDSE、国際バカロレア、etc

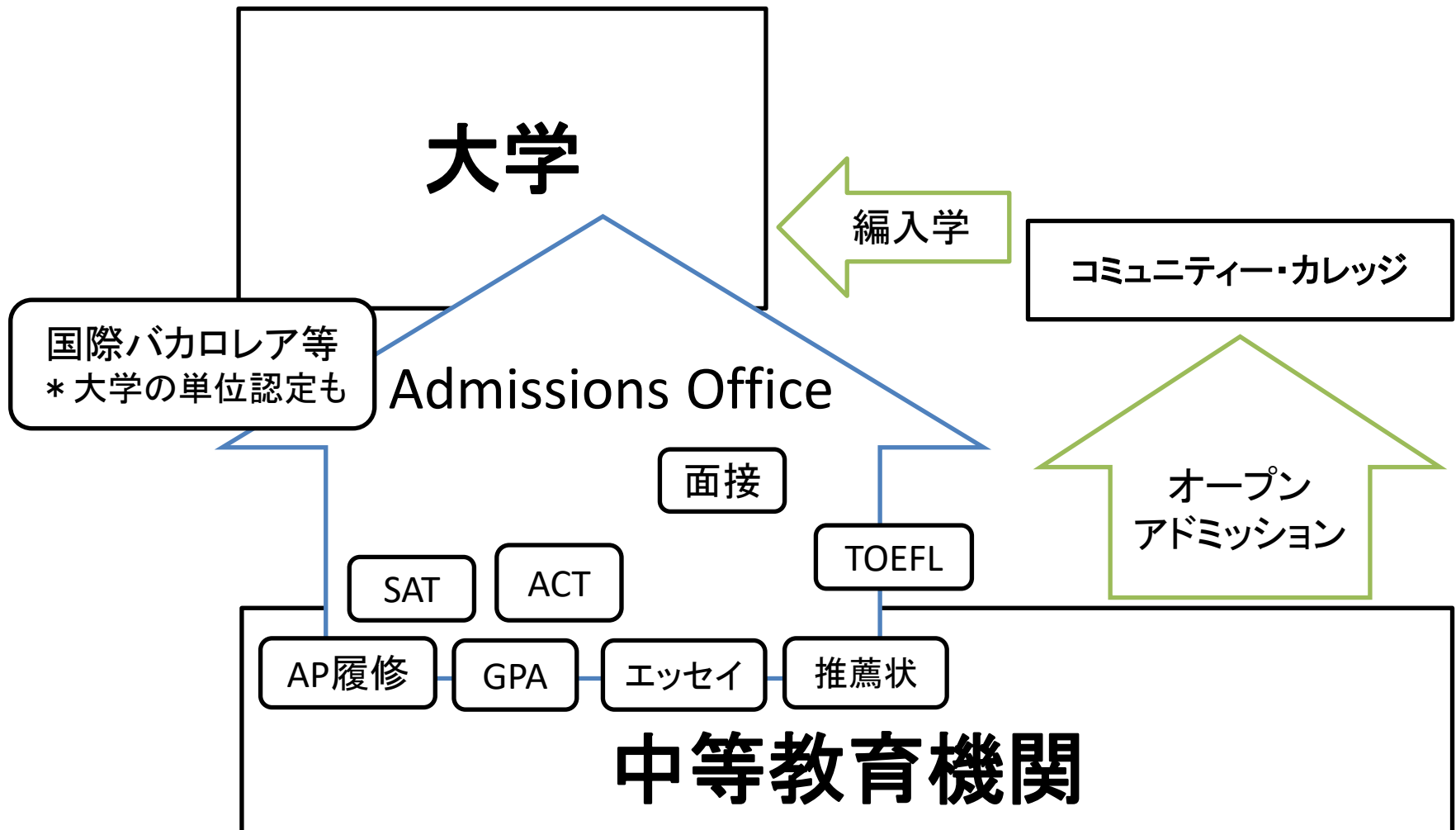
中等教育修了資格試験

中等教育機関

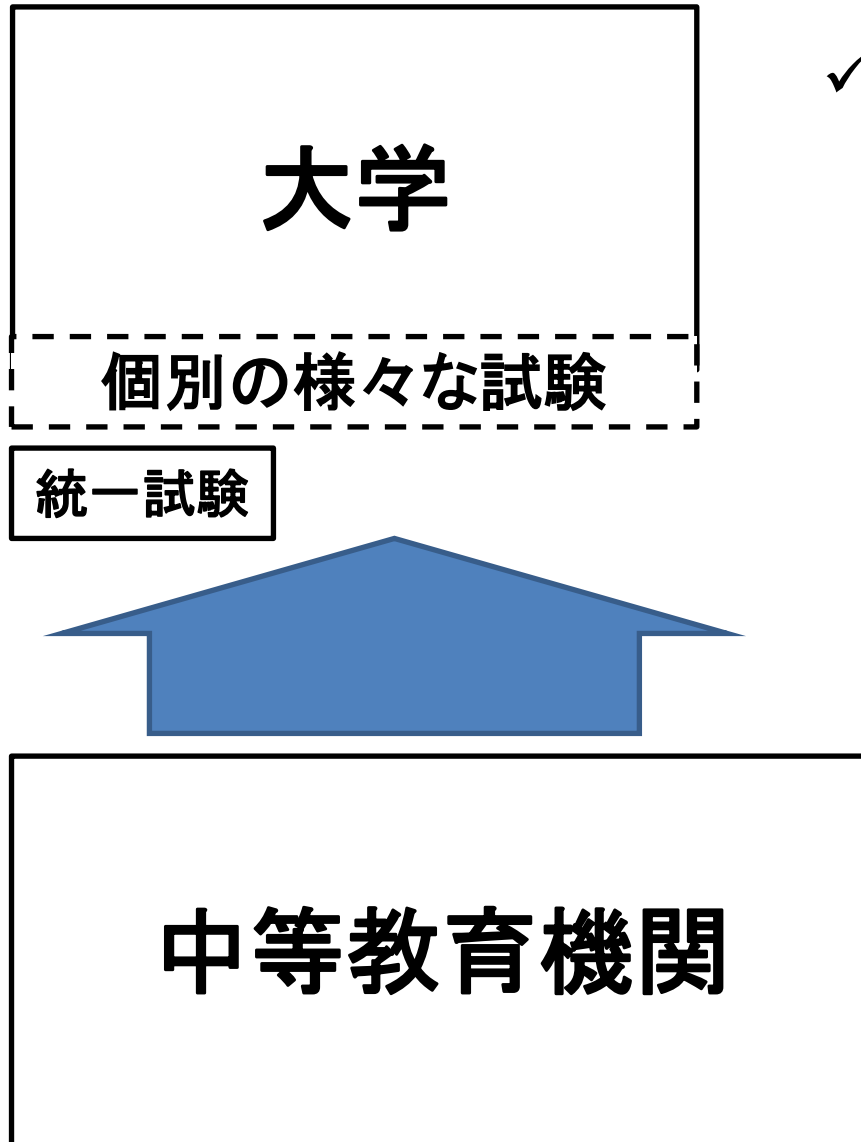
水準の低い国の
中等教育機関
(含む日本)

アメリカ型

- Admissions Office（入学者選抜室）の専門職員による書類審査が基本。
- 書類審査の材料として、様々な材料（標準テストも含む）を用いる。



日本は・・・



- ✓ 日本は部分的に統一試験を実施活用するが、基本的には各大学が独自の試験を実施する、世界的に見て独特なスタイル。
 - － 一般入試、推薦入試、AO入試、留学生入試、帰国生入試、社会人入試などなど、日本の大学入試は、他国に例を見ないほど多様。

結局中途半端な日本の高大接続改革

- 高校生の「学力把握」 & 受験生の「選抜」
 - 諸外国のような中等教育の達成度を測る制度の無い中で、我が国は受験競争の圧力によって高大接続のための学力担保が図られてきた。
 - しかし、少子化による高等学校や大学への全入時代を迎え、高等学校の教育課程の多様化と大学の選抜機能の低下により、高等学校における基礎的教科・科目の普遍的な履修とその学力の担保が機能しなくなった。

【参考文献】

渡邊 一雄 編(2010)『大学の制度と機能』

<https://amzn.to/333IHU3>

佐々木 隆生(2012)『大学入試の終焉：高大接続テストによる再生』

<https://amzn.to/36kVH9W>

忘れられた「学力把握」の仕組みづくり

- 「高大接続テスト」(2010/9)
 - 大学入試センター試験は、基本的には各大学における選抜の判定資料となる**集団準拠型**の試験であり、これを基礎学力の達成度測定の為の試験として利用するのは不可能。
 - それゆえ「高大接続テスト」はセンター試験の改変ではなく、**目標準拠型**の新たなテストとして設計し、段階評価や複数回実施を取り入れる。



- 「高等学校基礎学力テスト」(2016/3)
 - 当面は大学入学者選抜(や就職)には活用しない。
- 「高校生のための学びの基礎診断」(2017/7)
 - 共通試験ではなく、一定の要件を満たした民間の試験等を認定。

大学入試センター試験と 後継試験に対する過剰な期待

- 「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」
 - 「高大接続改革答申」(2014年12月)
 - 「合教科・科目型」「総合型」問題の導入、記述式の導入、段階評価による成績提供、CBT実施を前提、複数回実施の検討
 - 「高大システム改革会議 最終報告」(2016年3月)
 - 「合教科・科目型」「総合型」問題は消える。マークシート式(素点)と記述式(段階評価)の併用、CBTは先送り、マークシート式と記述式の別日程で何とか複数回？
- 「大学入学共通テスト」(2017年7月)
 - 英語は認定された民間試験(4技能)と共通試験(2技能)の併用、「国語」「数学Ⅰ」「数学ⅠA」で記述式を併用、実施日程は現行どおり、成績提供は1週間遅れる。

コスト・パフォーマンスを省みない入試改革 (センター試験 ～ 共通テスト)

- リスニング試験の導入(2006年度～)
 - 試験時間の約9%、配点(素点)の約5%に対して、
マニュアル(監督要領)に占めるページ数は約38% !
- 公民・理科での2科目受験方式(2012年度～)
 - 科目選択の弾力化と引き換えに、120分かけて1科目を解答する“裏技”と、それを封じる「第1解答科目」縛りの登場。
- 記述式問題(~~2021年度～~~ → 延期)
 - 50万人規模でかつ日程の限られた中での無理な要求。
- 英語4技能資格(~~2021年度～~~ → 延期)
 - 4技能の一体的評価への無意味なコダワリ
→ 従来型英検の不採用とTOEICの離脱。

高校生を“その気”にさせる大学への道筋を、 いかに“デザイン”するか

- 現在進められている入試改革は、大学進学者層のほんの一部にしか影響を与えていない。

山村 滋／濱中 淳子／立脇 洋介(2019/8)

『大学入試改革は高校生の学習行動を変えるのか』ミネルヴァ書房

<https://amzn.to/2PxIIINl>

日本経済新聞(2019/8/12)

「2020年度の大学入試改革 高校生「学習離れ」防げず」

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO48406810Z00C19A8CK8000/>

- 2012年4月から3年間にわたって首都圏の公立高校(地元で1番手とみなされる進学校4校、3～4番手ほどに位置付けられる中堅進学校6校)の生徒約3300人を対象とした追跡調査による研究。
- “入試改革”は一部の進学校の生徒にしか影響を与えておらず、多くの高校生の学習行動の活性化には結び付いていないことが示唆される。

日本の環境における入試のデザイン

- 競争的選抜に用いる為の集団準拠的な指標と、母集団の設定や底上げの為の目標準拠的な指標の正しい使い分けと組み合わせ。
 - 共通試験、個別試験、外部資格の役割分担。
 - 1点刻みの一発勝負の納得性。
- 推薦入試(特に指定校制)という知恵
- 中間層の高校生のための、目標準拠型標準テストの国家的必要性。

Ⅱ 横浜市立大学での取り組みから

1. 横浜市立大学の沿革と概要
2. 英語資格の出願要件化
3. 共通問題による“多様な”特別選抜
4. 指定校推薦：信頼関係に基づく高大接続
5. MMIを活用した医学科の推薦入試
6. 今後の課題（個人的展望）

1. 横浜市立大学の沿革と概要

旧制学制期(前史)

- 1871(明治4)年: 仮病院
- 1882(明治15)年: 横浜商法学校
→ 中等教育部分は、新制の市立横浜商業高校に
- 1928(昭和3)年: 横浜市立横浜商業専門学校(旧制)
- 1944(昭和19)年: 横浜市立医学専門学校(旧制)
- 1947(昭和22)年: 横浜医科大学(旧制)

新制学制での発足

- 1949(昭和24)年: 横浜市立大学商学部
- 1952(昭和27)年: 医学部、文理学部
- 1995(平成7)年: 国際文化学部・理学部(文理学部の改組)、看護短期大学部

近年の動向

- 2005年度より法人化(理事長・学長分離型)。
- 商学部・国際文化学部・理学部を改組し、国際総合科学部に統合。医学部には従前からの医学科とともに、看護短期大学部を改組した看護学科が加わる。
- 必修の全学英语科目「Practical English (PE)」を開講。TOEFL-ITP500(TOEIC600、英検準1級も可)を単位認定・進級等の要件に。
 - 当初は2割近く留年し、長らく1割程度が留年。近年は5%くらいまで留年率が減少。
- 2018年度、データサイエンス学部を新設。
- 2019年度より、国際総合科学部を、国際教養学部、国際商学部、理学部に改組。

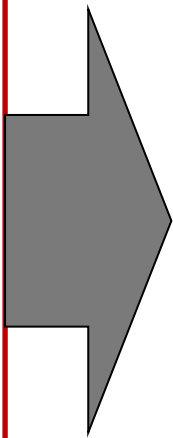
- 事務系の固有職員は、法人化前後に数名の専門職を採用。固有の一般職員は2006年より定期採用を開始。法人化後数年は固有の管理職採用も。

- 「入試課」から「アドミッションズセンター」へ
 - 2005年度当初の課長1、係長1、職員4は全員市派遣職員。年度途中でプロパーの専門職1（本日の報告者）と職員1が加わる。
 - 現在、課長1、係長2、専門職1、職員4（全員プロパー）＋有期雇用1
 - 2011年度より事務機構上の名称はアドミッション課に。
 - アドミッションズセンター長は当初は不在。追って事務系の部長の兼務の後、2008年1月～2009年3月は副学長が兼任。2009年4月以降は学部教員が就任。

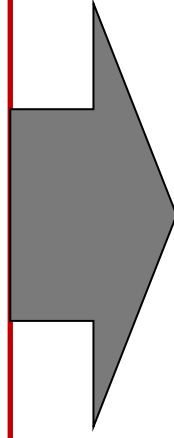
2. 英語資格の出願要件化

一般選抜＆公募推薦（センター利用）以外の、
全ての入試区分で英語資格を出願要件化。

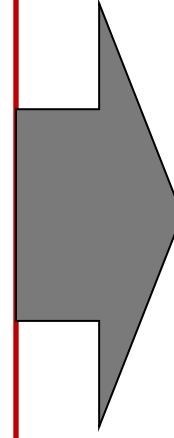
2005
年度
帰国生
留学生
のみ
要件



2007
年度
AO入試
(全分野)
にて
要件化



2011
年度
指定校
(一部分野)
にて
要件化



2015
年度
指定校
(全分野)
にて
要件化
完了！

【出願時に必要な英語資格】

2018 年 4 月以降に受検した英語資格に限ります。

今年度変更点囲線

	教養	商学	理学	DS	医学	看護
総合型(AO)	※1	※2	※3	【B】		
指定校制 /特別公募制	【B】					
帰国生	【S】	【A】	【A】	【A】		
国際バカロレア	【A】		【A】	【A】	【SS】	【A】
科学オリンピック		【B】	※4	【B】		
留学生	【A】	【A】	【A】	【B】		
社会人	【A】但し GTEC 除く					

【SS】 TOEFL- iBT80、または IELTS6.0

【S】 TOEFL- iBT76、または IELTS5.5

【A】 TOEFL-PBT500(iBT61)、TOEIC(L&R) 600、英検準1級、
GTEC{2018 年度の3技能版 700、2019 年度以降の4技能版 1140}、
または IELTS5.0

【B】 TOEFL-PBT460(iBT48)、TOEIC(L&R) 500、英検2級、
GTEC{2018 年度の3技能版 600、2019 年度以降の4技能版 1000}、
または IELTS4.5

※1 評定平均(全体)4.3 以上の現役・1浪生は【B】、それ以外は【A】

※2 数学(商業)4科目を履修し評定平均(全体)4.0 以上の現役・1浪生は【B】、
日商簿記検定試験(第 149 回以降)の2級以上取得者は【B】、
それら以外は【A】

※3 評定平均(全体)4.0 以上の現役・1浪生は【B】、それ以外は【A】

※4 2種類のコンテスト有資格者は【B】、1つのコンテスト有資格者は【A】

一般選抜・公募制学校推薦型選抜では、
英語資格の提出は不要です。

選抜区分	募集人員	出願期間	試験日	合格発表	入学手続
総合型選抜 (旧 A O 入試)	教養 25 商学 5 理学◆	9/15(火)～17(木)	1 次：書類審査 2 次：10/10(土)	1 次：10/2(金) 2 次：11/4(水)	20 12/24(木) 資格見込の 留学生は 1/21(木)
海外帰国生	教養◆ 商学◆ 理学◆ DS ◆ (科学オリンピックは 商学・理学・DSのみ)	9/7(月)～11(金)	10/3(土)	11/4(水)	
国際バカロレア				資格見込の 留学生は 12/24(木)	
科学オリンピック					
外国人留学生					
社会人					
指定校制 学校推薦型	教養 55 商学 50 理学 35 DS 10 看護 35	11/2(月)～5(木)	11/21(土)	12/1(火)	
国際バカロレア	看護◆ 医学 2	11/2(月)～5(木)	1 次：書類審査 2 次：12/5(土) 3 次：書類審査	1 次：11/17(火) 2 次：12/15(火) 3 次：1/19(火)	2/22(月)
大学入学共通テスト		9/28(月)～10/8(木)	① 1/16(土)・17(日) ② 1/30(土)・31(日)		
総合型選抜 (旧 A O 入試)	DS 5	10/13(火)～15(木)	1 次：書類審査 2 次：11/21(土) 3 次：共通テスト	1 次：11/5(木) 2 次：12/1(火) 3 次：※2/16(火)	※2/22(月)
特別公募 {県内}	医学 12	11/2(月)～5(木)	1 次：書類審査 2 次：12/5(土) 3 次：共通テスト	1 次：11/17(火) 2 次：12/15(火) 3 次：※2/16(火)	
学校推薦 {県外}	医学 6				
公募制 学校推薦型	教養 30 商学 15 理学 15	1/12(火)～22(金) 共通テストが②の者は ～2/3(水)に延長	<共通テスト>	※2/16(火)	
一般選抜 (前期日程)	教養 A 105+B 55 商学 A 130+B 60 理学 A 45+B 25 DS 40 医学 70 看護 65	※1/25(月) ～2/5(金)	2/25(木) 教養 商学 理学 DS 医学(1日目)	3/10(水)	3/15(月)
一般選抜 (後期日程)	DS 5		2/26(金) 医学(2日目) 看護		

2005年度新設の国際総合科学部でAO入試の導入

- 自己推薦をモチーフとした 1次書類審査 → 2次面接審査
- 比較的個性的な志願者が集まるが、高校の評定値をある程度点数化して書類審査に反映するも、学力担保は不十分で入学後の英語科目に躓く学生も。
- 誰でも応募出来ることから、志願者数が多すぎて、書類審査の負担が大きい。

2007年度より、AO入試で英語資格(レベル不問)の提出を義務化。

- 志願者数の適正化と学力レベルの底上げに効果があり、追って最低レベル(英検準2級程度)を設定し、志願者の状況をみながらレベルを引き上げる。
- 2015年度より、全ての分野で英検2級程度のレベルに設定。
- 2016年度より、経営科学系(現:国際商学部)では、数学履修の有無で英語資格レベルに差をつける。
- 2020年度より、国際教養学部・国際商学部・理学部では、高校の成績に応じて英語資格のレベルに差をつける。

2018年度新設 データサイエンス学部のアオ入試

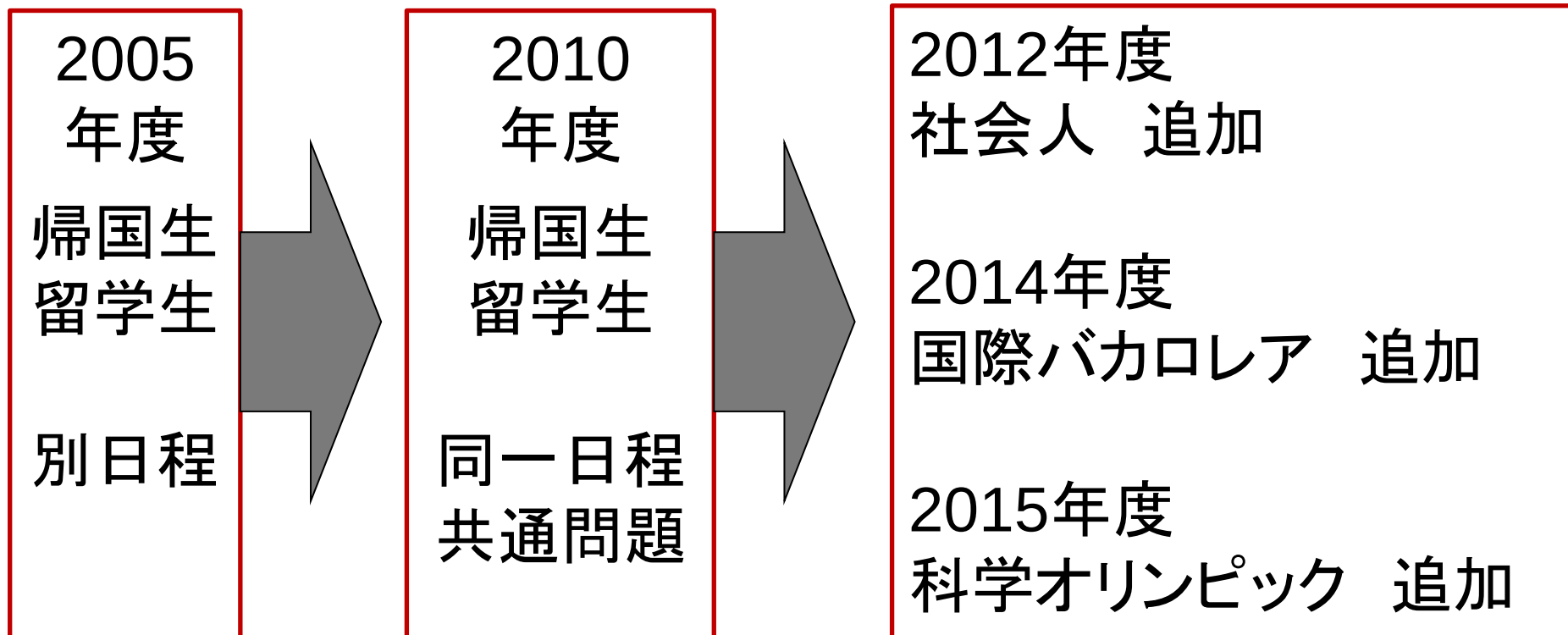
- 1次書類審査 → 2次面接審査に加え、3次審査としてセンター試験を課す。
- 2次面接までの他学部に比べて、倍率は低いものの、意外に個性的な学生が得られている。
- センター試験の得点率は、一般選抜合格者のそれよりは低いが入学後の成績に問題は見られない。

アオ入試以外での英語資格の要件化

- 帰国生・留学生等の特別入試では以前から英語資格の提出を求めていたが、指定校推薦においても、2011年度から一部の分野で提出を求め、2015年度以降は全ての分野での提出が義務化される。
- 日本の高校出身者の場合、英検2級レベルに到達している者は基本的な学習力が身につけている傾向。なお、2技能のTOEICでも充分。
- 英語資格水準の高い海外帰国生等では、2技能のTOEIC受験者よりも4技能のTOEFL-iBTやIELTS受験者の方が、日本語による筆記試験の成績が良い傾向。

3. 共通問題による“多様な”特別選抜

プロフィール設定(看板化)と、共通試験問題・
面接試験による一発勝負、の組み合わせ



2020(令和 2)年度 横浜市立大学 入試結果

24

学部等 区分		国際教養学部			国際商学部			理学部			データサイエンス学部			医学部			全学計		
														医学科	看護学科	学部計			
★特別入試	募集	各若干名			各若干名			各若干名			各若干名			2			2 + 各若干名		
	区分	帰	IB		帰	IB	科	帰	IB	科	帰	IB	科	IB			帰	IB	科
	志願	27	17		28	4	0	10	6	25	10	7	3	4			75	38	28
	1次合													4					
	受験	15	10		24	3	0	9	4	22	9	6	3	4			57	27	25
	2次合													4					
	合格	11	7		10	2	0	1	1	9	2	2	2	2			24	14	11
	入学	7	2		5	1	0	1	0	4	2	0	2	2			15	5	6
	区分	留	社	計	留	社	計	留	社	計	留	社	計			計	留	社	計
	志願	3	1	48	36	1	69	13	0	54	8	3	31			4	60	5	206
	受験	3	1	29	35	1	63	13	0	48	8	3	29			4	59	5	173
	合格	3	1	22	9	1	22	5	0	16	2	1	9			2	19	3	71
	入学	2	1	12	8	1	15	5	0	10	1	1	6			2	16	3	45
合計	募集	270			260			120			60			90	100	190	900		
	志願	982			844			426			301			292	155	447	3000		
	受験	749			714			391			226			240	147	387	2467		
	合格	334			325			144			78			100	118	218	1099		
	入学	288			270			129			63			90	102	192	942		

★特別入試 帰:海外帰国生入試、IB:国際バカロレア入試、科:科学オリンピック入試、留:外国人留学生入試、社:社会人入試

看板の重要性

- 対象資格やプロフィールを入試の名称に掲げる事により、容易に認知される。「AO入試」が多様な志願者の評価を掲げても、社会人などにはまず認知されない。
- 出願要件の定義の中に、多様性とともに学力担保の仕組み(英語資格、国際バカロレア、科学オリンピックコンテスト、日本留学試験)も組み込む。

一発勝負のわかりやすさ

- 受験者にとっても、評価する側にとっても、ルールが分かりやすく、納得しやすい。

日本的環境での制度設計

- アメリカの大学入試(アドミッションオフィスによる選考)とも、ヨーロッパ型の大学入試(中等教育修了資格試験の仕組みが整備されている)とも、相当かけ離れた環境。
- 入試専門の人員がなかなか割けない小規模大学では、特に工夫が必要。
- お茶の水女子大学の「フンボルト入試」や追手門学院大学の「アサーティブ入試」の様な入試を個人的にはやりたいが…

4. 指定校推薦：信頼関係に基づく高大接続

- 2005年の法人化・学部改組にともない国際総合科学部（現：国際教養学部・国際商学部・理学部）にて新規導入。
- 当初の推薦指定校は、以前の学部で実施していた公募推薦入試（センター試験を課さない・横浜市民のみ応募可）の入学実績に応じて配分。
- 2008年度以降、指定校推薦入試以外での入学実績や、入学後の成績追跡調査などをふまえた見直しを開始。
- 入学後の成績が良いこともあり、2009年度以降は横浜市民の条件を撤廃。
 - 推薦指定校は、近隣校が多いものの、北は北海道から、南は沖縄まで、地方の高校も指定している。
- 2010年度より、医学部看護学科でも導入。
- 2018年度新設のデータサイエンス学部でも実施。

- 求める評定値(指定値)は、殆どの指定校は 4.0。
一部の有力校に対して 3.8 に下げたもののあまり効果無し。
- 選考は、高校からの推薦・出願 → 面接 → 合格 → 入学を前提として運用。
- 旧:国際総合科学部→後継3学部では、グループ面接。データサイエンス学部と医学部看護学科は個人面接で実施。
 - 旧:国際総合科学部では、過去に1～2回ほど、面接時の態度にやや問題があり、高校に照会したケースがあるが、後継3学部も含めて不合格になったケースはない。
 - 医学部看護学科では、実施3年目頃より、面接評価者より不合格にしたいという意見が出たため、2015年度の募集要項より記載内容に不合格があり得ることを盛り込み、以降、少数例ではあるが実際に不合格となるケースも。
 - 不合格者の高校へは、学科長とアドミッション課の課長が訪問し、事情を説明する。

合格を前提とした指定校のグループ面接における、理学部での教育的な試み。

- 2019年度と2020年度では、50分のグループ面接の中で、20分程度の時間を使い；
＜2019年度：マシュマロとパスタ＞
＜2020年度：新聞と輪ゴム＞
を用いた工作物を製作させる。



- 2021年度では、より1人1人が時間をかけて取り組めるよう、事前の課題として実験の実施を課し、報告させた。

5. MMIを活用した医学科の推薦入試

- 2005年の法人化以降、後期日程を廃止し、60名（当時）の入学定員全てを、一般選抜の前期日程で募集。
- 地域枠等の導入で募集人員が90名まで増える中、入学者の学力・モラルの低下や地域枠の不人気が課題に。
- 面接を重視した推薦入試を検討する中で、カナダや英国の医科大学が実施しているMMI（Multiple Mini Interview）に注目。
- 英語資格、面接、センター試験の3要素の組み合わせを検討

	出願時の 英語資格	11～12月の 面接	1月中旬の センター試験	2月上旬の 面接
1案	高水準で求める	○	×	×
2案	求める	○	○	×
3案	求めない	×	○	○
4案	求めない	×	○	×

＜医学科特別推薦入試の選考方法＞

2019年度までは1校1名、2020年以降は条件により2名まで応募可。

11月 書類審査

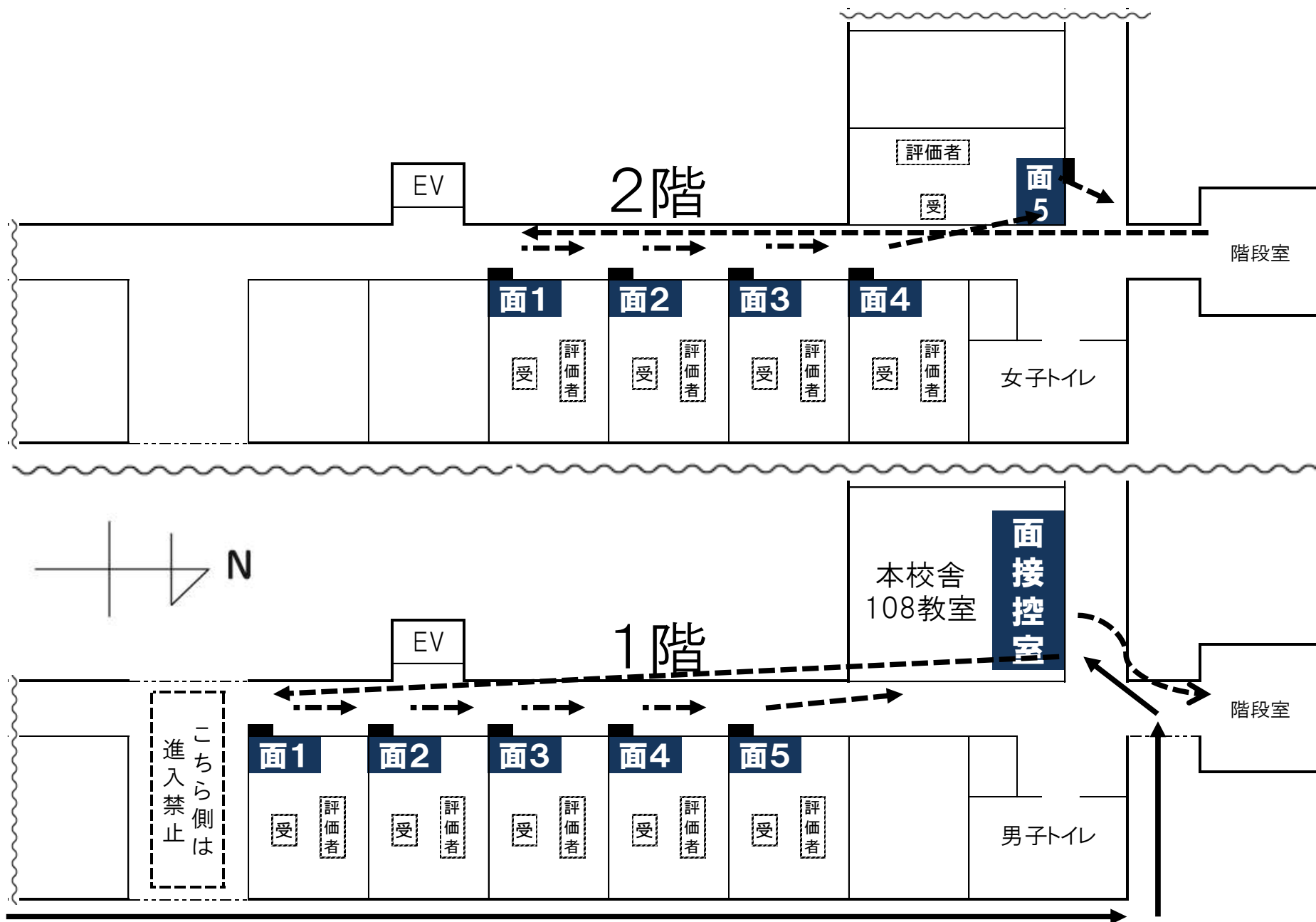
- 英語資格(3.0～5.0)＋高校成績(4.3～5.0)
3.0＝ 英検2級・TOEIC500・TOEFL48・IELTS4.5・GTEC1000(4技能)
5.0＝英検準1級・TOEIC700・TOEFL76・IELTS5.5・GTEC1280(4技能)

12月 面接 10分×5回の Multiple Mini Inetrview (1000点)

- 5つの面接室のうち、最初の2つは提出書類(志願理由書)による質疑応答というオーソドックスなスタイル。後半の3つは状況課題によるスタイルで実施。
- 面接の評価者には、他職種連携の考え方も反映し、医学科(病院)教員のみならず、看護学科教員や入試・学務の職員も加わる。

1月 共通テスト(1000点)に↑面接点を加えて最終合否

- 共通テストの点数は、一般選抜の第1段階選抜合格者の平均点(例年85%くらい)以上との条件も。



募集人員	特別推薦入試				国際 バカロレア 入試	一般選抜		
	県内枠		県外枠					
	地域枠	指定枠	地域枠	指定枠	一般枠	一般枠	地域枠	指定枠
2015年度	***	***	***	***	***	60	25	5
2016年度	5	***	***	***	***	60	20	5
2017年度	5	***	***	***	***	60	20	5
2018年度	5	***	***	***	***	60	20	5
2019年度	8	***	***	***	2	58	17	5
2020年度	7	2	4	1	2	58	14	2
2021年度	10	2	5	1	2	58	10	2

- 2016～2017年度の特別推薦入試は、横浜市立高等学校全校(9校)＋その他神奈川県内で本学医学部医学科に合格実績(2009年度入試以降)のある高等学校(37校→38校→41校)のみが対象。
- 医学科カリキュラムの過密化により、ここ数年は10%程度の留年者(主に2年次)が発生するが、推薦入学者の留年は現在まで皆無。

6. 今後の課題(個人的展望)

- 共通テストの軽量化。
 - リスニング試験導入前のセンター試験くらいが良い。
- 監視機能が組み込まれた安価な(数千円程度の)Webテストの開発と普及。
- 選考期間の早期化・長期化・分散化。
 - 3月(多くの高校の卒業式以降)に進学先が決まる、現行の国公立大学選考日程の不自然さ。
 - 短期集中決戦のリスク回避

ご静聴ありがとうございました。

